



2020.7.21.

8月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

コロナ禍による登園自粛の頃から大阪府の吉村知事が頻繁にテレビに登場されましたが、内閣総理大臣の安倍さんのニュースへの登場はそれ以上だったと思います。あまりに何度も見かけたので、どういう内容でニュースに取り上げられていたのが忘れてしまったのですが、安倍さんが「我々の力で平和を勝ち取り」と力を込めて話されていました。私は『勝ち取り』という言葉に引っかかってしまって、後の話は耳に入らなくなってしまいました。「平和は『勝ち取る』ものなのか？」

単にアピール効果から選ばれた言葉だったかもしれません。聞く方も、深く考えず聞き流すべき箇所なのかもしれません。でも引っかかって外れなくなってしまいました。

「勝つ」は「負ける」と対になって意味を成す相対的な言葉です。勝者がいる処には必ず敗者がいます。平和は、敗者の涙や屍の上に成り立つものなのだろうか。平和のためには、争って勝たなければならないのだろうか。勝って平和を手に入れる人、負けて平和を失う人、そんな構図なのか。

3月から礼拝に来てくださっている神戸聖ヨハネ教会の藤井尚人牧師が「人を分け隔てしてはなりません」（ヤコブの手紙2章1節）という聖句から、「みんなが一つであることが平和です。平和の反対は分裂です。」と教えてくださいました。そして「みんな」には、例えば考え方が違う人も含まれます。

藤井牧師の言葉で引っかかりが解け、数年前のちとせだよりに「『平和を実現する人々は幸いである（Blessed are the peacemakers）』（マタイによる福音書5章9節）と書かれているように、平和は、複数の人たちによってつくるものとされています。」と、自分で書いていたことを思い出しました。私は「平和は勝ち取るもの」という考えに反対です。

神は、自分と考え方が違う人を排除するのではなく、神の愛によって一つになりなさい、と仰います。そして神は、まず私たちを愛し、それから「互いに愛し合いなさい」と仰います。みんなが一つになるには、まず自分が和解の手を差し伸べることから始めなさい、そういうことだと思います。

例年より少し短い夏休みになりますし、2学期からも「例年通りではない」日々にならざるを得ないでしょう。でも、今までとは違うけれど後悔はない、そんな毎日にしたいと思っています。

年主題 『こころが満たされる』

<年主題聖句> 「喜びと平和であなたがたを満たす」

(ローマの信徒への手紙 15章13節)

8月主題 『やってみる』

<聖句> 「主はすぐ近くにおられます。」

(フィリピの信徒への手紙 4章5節)